

第912号

令和8年9月7日

佐渡市立金井小学校

佐渡ことば・こころの教室

教室だより

〒952-1209

佐渡市千種丙178番地1

TEL:0259(63)4156(直)

4115(代)

FAX:0259(63)4117

E-mail:skotoba@sado.ed.jp

小さく手をふってみた

佐渡市立真野小学校

校長 高橋 高志

1学期、子どもたちとあいさつを交わす時に1つだけ心掛けたことがあります。それは、「小さく手を振る」ことです。

これまで、子どもたちと様々な場面であいさつを交わしてきました。元気に笑顔であいさつしてくれる子もいれば、ちょっと緊張気味でなかなか目を合わせられない子もいます。そこで、まずはこちら(大人)のほうから親しみの気持ちを届けるために、時々、小さく手を振ってあいさつをすることにしたのです。すると、以前は声を掛けても目を合わせなかった子どもたちも、こちらを向いてくれるようになりました。表情も柔和になりました。中には手を振り返してくれる子もいます。そして、以前よりも心の距離が近づいた気がしました。

当校では、先生方の中にも、名前を呼んであいさつしたり、あいさつの他に一言付け加えたり…、といったひと工夫をしている姿が見られます。とても温かい気持ちになります。

あいさつには、子どもたちの心模様が如実に表れます。まずは私たち大人から、子どもの心に届くあいさつを心掛け、子どもたちの安心感や親しみの気持ちの醸成につなげていきたいものです。



5:1の割合で

先日、「自己肯定感を育むポジティブな支援」について、県立教育センター指導主事 金田 智和様の講演を拝聴しました。学んだことを私なりにまとめると、次のようになります。

- ①日本の子どもは自己肯定感が低い傾向にある。自己肯定感が低いと、新しい挑戦を避けたり、ネガティブな評価をしがちになったりする。逆に、自己肯定感が高いと、ストレスや不安に強く、前向きで、個性や違いを受け入れやすい。
- ②大人も子どもも、ポジティブよりネガティブなものに目がいきがちである。大人は子どものネガティブな部分を気にしやすいし、それを指摘された子どもも褒められたことより、注意されたことが心に残りやすい。賞賛：叱責を5:1の割合にして、子どものやる気を育てよう。
- ③褒めるときは、ポジティブな行動が見られたすぐ後に、具体的に、発達段階に合わせた言葉で褒めるなどすると、子どもは褒められたことを実感しやすい。

我が身を振り返りながら、皆さんと子どもの健やかな成長を願いたいと思います。

(仲田 一雅)



言葉で伝える大切さ

「なんで、私だけ褒めてくれないの？」

ある日、長女に言われた言葉です。私は、二人の娘たちに同じくらい「ありがとう」「すごいね」「やったね」と伝えるようにしていました。しかし、この言葉を言われ、正直ショックでした。話を聞いていくと、次女は小さなことでも褒められているのに、長女はできることが分かっていたから褒めてなかったということでした。長女は、「自分もできたら褒めてほしい」と勇気を出して私たちに伝えてくれました。長女に悲しい気持ちにさせてしまい本当に申し訳なかったです。それからは娘たちができたことや頑張っていたことをすぐに伝えるようにしました。長女はそれ以降、「私だけ褒めてくれないの？」と言うことがなくなりました。

私自身が子どもだった時にも、娘と同じような思いはあったような気がします。娘たちの話に耳を傾け、できることが当たり前ではなく、一人ひとりが頑張っていることを伝え、みんなが笑顔になれるように関わっていきたいです。
(加藤 果歩)

成長した姿に感動

先日、以前担任をしていた A さんに会うことができました。久しぶりに会えた懐かしさと、立派に成長し社会人となった姿を見たうれしさから、いろいろと話をしてしまいました。

A さんは、猛暑の中一日働いて、体力も気力も使い果たしてきたと思いますが、そんなそぶりは見せず、私の顔を見て元気な挨拶を返してくれました。そして笑顔で、頑張って仕事を終えたということを詳しく話してくれました。それは、かつて学校生活で一緒に勉強した時のスタイルと全く変わりなく、A さんの当時の様子が蘇ってきました。これまでの学校生活や家庭生活で築いた生活習慣がさらにアップデートされ、社会人として立派に成長している姿に感動しました。日々の生活や家庭での関わり方の大切さを感じることができました。
(猪股 寿樹)

親の会コーナー

第二回学習会予定

詳細は後日配布する案内でご確認ください



東條氏の著書を三冊購入しました。お読みになりたい方は、ことば・こころの教室にお問い合わせください。

○日時：11月14日(土) 午前中

○場所：金井小学校 1階多目的スペース

○内容：発達障害の診断や診断後の支援について
発達凸凹に関わる講演

○講師：医療法人社団こども輝き発達クリニック ぱすてる院長
元 はまぐみ小児療育センター 所長
東條 恵(とうじょう めぐむ)氏

【医療法人社団こども輝き 発達クリニック ぱすてる】 (HPより)

◆ことば・知的・運動の発達の遅れ、落ち着きがない、不注意がある、自閉スペクトラル症、ADHD(注意欠陥多動性障害)等の疑い等で診察を通して、発達の遅れなど困り感を検討します。それに応じて、保護者を含む支援者の方々に支援について説明します。



お知らせコーナー



夏季言語検査を行いました

島内の保育園・こども園の年長児を対象に、言語検査を行いました。更に詳しい再検査をおすすめする方には案内をお渡ししました。再検査は随時受け付けています。お気軽にお申し込みください。

有意義な情報交換ができました

夏季休業中に、通級児童生徒の担任の先生との情報交換会を行い、日頃の学校での様子を直接お伺いすることができました。ご協力いただきありがとうございました。今後も連携していきます。

